

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 10 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500550
事業所名	グループホームあすなろ
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	越智 広美
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 18 日

<p>【事業所理念】 笑顔で楽しく穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○コロナ過で外出支援が難しく目標には達成出来ていないと感じられる。 ○地域のネットワークづくりに取り組む事も難しかったと思われる。 ○防火災害マニュアル見直しを行い新規マニュアルのもと予行演習が行えた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して約2年を迎える事業所は、静かな環境で穏やかな時間が流れる住宅街に立地している。事業所はバリアフリー構造で、新しい設備も完備され、清掃や換気も行き届き、利用者や職員はともに快適に過ごすことができています。また、ユニット毎に配置された管理者を中心に、資格の有無や経験年数、様々な世代の程良くバランスが取れた職員同士が、しっかりとコミュニケーションを図りながら、風通しの良い職場環境が構築されている。さらに、コロナ禍において、事業所では外出や面会などの様々な制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、管理者は、「徐々に家族や地域との交流を広げていきたい」と考え、交流を計画している。加えて、外部評価の訪問調査において、コロナ禍で新しい事業所ということもあり、十分な実施や対応ができていない項目も見られたものの、事業所では職員間で前向きに検討している段階でもあり、コロナ禍の収束後には、これからの活動の広がりが楽しみな事業所である。</p>
-------------------------------	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いや意向を表現できるよう把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや希望を聞き取り、フェイスシートを活用して、丁寧に記録を残している。また、日々の生活の中で、利用者から新たな思いなどを聞くこともある。さらに、新たな情報に更新した際には、フェイスシートに赤字等で、変更か所を分かるよう記載している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや職員会議で情報を共有し、ご本人の目線にたって話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族との面会時等にお話を聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の介護記録に詳細な記録をしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	関わりのなかの会話等で、ご本人の思いを引き出せるよう取り組んでいる	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や本人に聞き取りを行い、面会時にも情報を聞くよう努めている	/	/	○	入居時に、事業所では利用者や家族との面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、利用者から情報を聞くとともに、電話連絡時や面会時を活用して、家族から新たな情報を聞くこともある。さらに、把握した情報は、フェイスシートや申し送りノートなどに記録し、職員間の情報共有に努めている。加えて、定期的にフェイスシートなどの記載内容の情報を更新するとともに、更新した年月日も朱書きで書き留めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の様子を職員間で共有し、申し送り時とノートにて把握できるようにしている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々観察し、些細な変化や気付きがあれば職員間でも共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送り時に個々の様子を話し、要因になっていることについて話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護日誌、健康管理表を活用し、申し送り時に情報の共有を行っている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様やご家族の思いやニーズを考え、都度申し送り時に話し合うようにしている	/	/	○	月1回開催する職員会を活用して、利用者の状態や支援方法等を検討するほか、朝夕の申し送り時に相談することも多くなっている。また、利用者から希望や訴えが出された場合には、申し送り時に職員間で情報を共有するとともに、柔軟に対応するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	都度申し送り時に話し合うようにしている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明らかにするよう努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の要望に沿った介護サービス計画を作成している	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見や希望を聞くほか、サービス担当者会議を活用して検討を行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。また、利用者の意見や希望を反映した介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員会や日々のご家族からの聞き取りにより、反映するようにしている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	個々の身体状況に応じた内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域との協力体制は取れていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握はできていないが、意識的に把握し共有するよう努めている	/	/	/	介護計画の内容は、サービス担当者会議等の中で話し合うとともに、個別ファイル等は、職員がすぐ確認できる場所に置き、職員は目標やサービス内容等を確認できるようになっている。また、職員は計画に沿ったサービスの実施状況を、毎日○×などの印を付けてチェックを行うとともに、介護記録には、利用者の様子などを丁寧に記録することができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員にも意見を聞き取りモニタリングを行っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記録している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送り時や職員会で話し合い共有し記録に残している	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	短期目標の期間に応じて見直しを行っている	/	/	/	事業所では、要介護認定の期間に合わせて、介護計画の見直しをしている。また、月1回実施する職員会の際には、サービス実施状況を確認して利用者の現状確認を行うとともに、介護支援専門員が要約したコメントを残すことができている。さらに、介護計画の目標などを職員間で検討するとともに、状態の変化のあった場合には、現状に合わせた介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回の職員会で個々の現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば本人、家族、主治医と話し合い、計画の見直し、変更を行っている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回は職員会を行い、緊急時は現場の職員間で話し合いを行っている	/	/	/	毎月実施する職員会を活用して、職員間で話し合うとともに、議事録を作成している。月末頃の職員が参加しやすい日程を調整して、職員会を開催している。また、日々の申し送りの内容は、申し送りノートに記載され、出勤時等に職員は確認をしている。さらに、参加できない職員には、正確な情報が伝達できるように、議事録や申し送りノートなどの確認を徹底している。加えて、緊急案件のある場合には、申し送り時に話し合うほか、その日の出勤職員で話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	話しやすい雰囲気づくりが出来ている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日程を調整し、不参加の職員にもわかるよう申し送りを行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送り事項を説明している	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日の申し送りを行っている	/	/	/	日々の朝夕の申し送りを実施するほか、出勤時等に申し送りノートや議事録等を確認してもらい、職員は確認後に署名を行い、確実な伝達に繋げている。また、重要事項などの内容によっては、管理者が口頭でも伝達をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用し、朝夕の申し送り時にも共有している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>(2) 日々の支援</b>											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	訴えに対して可能な限り行っている	/	/	/	塗り絵や計算ドリル、カラオケ、編み物などを行う際には、職員から利用者に声をかけ、したいことや興味のあるレクリエーションなどができるように支援している。また、午後の時間帯には、利用者が思い思いの場所で、好きなことをしながら過ごしてもらえるよう努めている。さらに、職員は利用者から生き生きとした表情を引き出し、少しでも楽しみのある生活を送れるよう配慮している。コロナ禍において、事業所では外出や面会などには制限が設けられているものの、可能な範囲で、利用者の思いや意向を大切にしたい支援に努めている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択が可能な方には、ご本人の希望を傾聴し決めて頂いている	/	/	/		○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	様子を観察しながら会話、交流し気持ちに沿うよう対応している	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活習慣やご本人の特性を観察し、希望に応じて対応している	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔になれるような言葉かけに努めている	/	/	/		/	○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	反応や態度を観察し、些細な変化にも気付くことができるよう努めている	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけないような声替えを行い穏やかな態度で接するようにしている	/	/	/	◎ 定期的に社内研修等を実施し、職員は人権や尊厳などを学んでいる。また、職員は意識して利用者への声かけや態度などを気を付けるとともに、気になる行為等が見られた場合には、管理者等が該当職員へ指導や注意喚起をしている。さらに、気になることは、職員会等を活用して話し合うとともに、職員への周知と再発防止に努めている。加えて、職員は居室等をプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際には、ノックや声かけをして、入室することができている。		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法や声の大きさ等配慮のある声掛けを行っている	/	/	/		/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時、排泄時は担当者以外は出入りを控えるようにしている	/	/	/		/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にはノックをして入室するようにしている	/	/	/		/	◎
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	業務上知り得た個人情報については厳重に管理し、むやみに話題にしないようにしている	/	/	/		/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳む、掃除、洗い物など出来るところを手伝ってもらい、感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	◎ 洗濯物たたみや清掃、食器洗いなど、職員は利用者を手伝ってもらった場合には、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、職員は利用者一人ひとりの思いや意向をしっかりと聞くよう努めるとともに、利用者同士の関係性を把握し、座席の位置を考慮したり、利用者の間に職員が座ったりするなど、大きなトラブルが起こらないよう配慮をしている。さらに、日頃から職員は、利用者の様子をよく観察して性格などの把握にも努めており、気を配りながら、一人ひとりが快適に過ごせるような支援に努めている。		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声を掛け合い、励ましあえるような関係づくりを作れるよう努めている	/	/	/		/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	都度、座席やテーブルの配置換えをしたり、職員が間に入って関係性が良くなるよう配慮している	/	/	/		/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時には間に入り、お互いから傾聴し関係性が悪化しないよう注意している	/	/	/		/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントをもとにご本人との会話交流の中で情報を得ている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	以前利用していた場所等を聞き取り把握するよう努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により外出ができていない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響により面会が行えないが、面会が可能になればご本人の希望や状態により居室で過ごしていただく予定である				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルスの影響がない時には散歩や外出を行っていたが、現在は玄関先までの日光浴等固定されている	×	○	○	コロナ禍において、事業所では外出制限は設けられているものの、感染状況を見計らいながら、天気のいい日には近くの公園に出かけたり、屋外にあるベンチで日向ぼっこをするなど、少しでも気分転換が図れるよう努めている。また、職員が買い物や薬局へ行く際に、利用者も同行してドライブをすることもあり、その際には、車外には出ずに待機してもらい、風景などを楽しんでもらっている。さらに、車いすの利用者も、公園への散歩や日向ぼっこをしてもらうことができている。加えて、要介護度の高い利用者にも、2階のベランダに出て、日向ぼっこや外気浴ができるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	コロナウイルスの影響により行えていない			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナウイルスの影響により行えていないが、緩和すればご家族の協力も得ながら外出を行っていただく予定				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全職員で個別ケアの重要性について話あっている				ラジオ体操や歩行訓練など、事業所では利用者に合わせて身体を動かす機会づくりを行い、心身機能が保てるよう支援している。また、職員は時間がかかっても、利用者一人ひとりのペースに合わせて、自分ができることは過剰に支援せず、見守りや待つ介護などの姿勢を大切にしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	筋力維持につながる遊びや、体操を行い、嚥下体操も毎日行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご本人の身体能力にあったレクリエーションや作業に取り組んでいただけるよう観察しながら努めている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家事や生活リズム等、ご本人の習慣を崩さないよう取り組んでいる				洗濯物たたみや清掃、食器洗いなどの家事を、職員と一緒にしている利用者も多い。また、事業所では、家事などの役割や出番などを利用者にも無理強いくことなく、職員は声をかけて、誘ってみようとしている。さらに、全ての利用者がレクリエーションに参加している訳ではないものの、訪問調査日には、居室に戻らずに共用空間で快適に過ごす利用者の様子を見ることができた。加えて、利用者の高齢化や重度化などに伴い、手伝うことが難しくなっている利用者も増えてきている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの得意なことを把握し、声掛けにて無理せず参加できている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により行えていない				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自宅で愛用していた物を持ってきていただいている				起床時に、自分で服を選んで、身だしなみを整えることができる利用者もいる。訪問調査日には、食事の際等に、食べこぼしや衣類の乱れ等が見られる利用者に、職員がさりげなくファローをしている様子を見ることができた。また、2か月に1回、訪問理美容の来訪があり、希望があれば毛染めもしてもらうことができ、利用者に喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご本人の希望や意向に沿うよう対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けを行いご本人が納得できるように努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の意思を確認しながら服装を選んでいただくよう努めている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり上げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドが傷つかないよう声掛けに配慮し対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人希望の理美容店があれば、ご家族の協力を得て外出を行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	意思疎通が困難な場合にはご家族からの情報を元に、ご本人が好み服装や髪形になるよう支援している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	彩や形に考慮し、出来る限り口から摂取していただけるよう支援している				事業所では、業者の配食サービスを活用し、各ユニットで炊飯と汁物を準備し、食材を温め直して提供している。食事のメニューは、業者の栄養士がバランスの取れた献立を管理して、提供をしている。昨年の4か月間程度、職員の手作り食を導入し、利用者に好評を得ていたものの、現在は職員の負担を考えて、元の状態に戻している。管理者等は、手作り食の提供を含めて、今後の食事の提供方法を検討しているため、利用者に好みのメニューを聞いたり、定期的に配食サービスを止めて、利用者と一緒にメニューを調理したりするなど、楽しみの一つである食事を利用者により良い形で提供できるように、職員間で検討することを期待したい。また、食器類は、自宅で使い慣れた食器等を使用することも伝えているものの、ほとんどの利用者は事業所で用意した物を使用している。さらに、季節の行事や誕生日などのイベント食の日には、職員が手作りの食事やケーキなどの提供を行うほか、利用者と一緒におやつ作りを楽しむこともある。加えて、コロナ禍において、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることはしていないが、利用者に寄り添い、声かけをしながら楽しく食事ができるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の下ごしらえが出来る利用者様には手伝って頂き下膳後の食器洗いなどをして頂いている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ともに行った作業後には必ず感謝を伝え、自信をもっていただけるよう努めている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ご本人の様子や、ご家族から情報を得て把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	季節感にあった食材を調理し提供できた			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	ご本人の嚥下状態に見合った食事を提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事時には施設の物を使用し、居室で使うものはご本人が愛用されていた物を持参していただいている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染予防の為、一緒に食事はとっていないが、見守りやサポートが行える体制をとっている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前には今日のメニューや調理方法等食事に関わる会話を行っている		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	介護記録に食分量、水分摂取量を記入するようにしている				
		k	食分量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人の希望を聞き、様々な飲み物や食べ物を提供している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	手作り食の際は話し合いを行い、その他は配食サービスを使用している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前の手洗い・アルコール消毒を常に励行している				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後に歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている				毎食後に、職員は利用者に声をかけ、一人ひとりに付き添い、順番に歯磨きなどの口腔ケアを支援している。また、必要に応じて、職員は磨き残しなどのフォローをしている。さらに、一人で歯磨きができる利用者も含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、口腔内の状況確認の際に、気になることがあれば、早期に訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	異変があれば情報共有を行い、ご家族とも相談してうえで必要に応じて歯科受診、訪問歯科を利用している			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診の際は、医師にブラッシングの方法を教えて頂くなどし、日々の生活の中で使えるようにしています				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	それぞれの状態に応じて支援できている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨きの声掛け・見守りを行い出来るだけ自分で行えるよう支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常を発見した際にはご家族に報告し歯科受診を行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し、排泄の自立に向けて支援している				事業所では、可能な範囲で利用者がトイレで排泄できることを基本として、支援をしている。また、職員がこまめに声かけやトイレ誘導をすることで、布パンツで生活することができている利用者もいる。さらに、利用者の状態に合わせて、紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用を、職員会の中で検討することも多い。加えて、事業所では利用者の負担を考慮して、記録で排泄状況を確認しながら、できる限りパッドは薄い物を使用したり、紙パンツから布パンツに変更できるよう工夫したりするなど、自立した排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、便秘予防に努めている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録を通して把握し、共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で情報を共有し、その都度話し合いを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の表情や行動を観察し、適宜対応している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄する場所や時間帯など、介護記録も参考に考え、スムーズに排泄ができるよう都度対応している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、夜間に合ったものを使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操やマッサージを行ったり、水分摂取を促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の体調に応じて時間帯や曜日を決めている。湯温は都度ご本人に聞くようにしている。		◎	○	事業所では、週2回程度、利用者が入浴ができるよう支援している。また、事業所は新しく、脱衣場と浴室には冷暖房設備が完備されていることもあり、冬場でも利用者は温度差を感じることなく、快適な状況で入浴することができ、現在入浴を拒むような利用者もいない。さらに、利用者の好みに応じて、湯の温度や湯船に浸かる時間などにも柔軟に対応できるよう努めている。加えて、好みのシャンプーや入浴剤を使用している利用者もおり、少しでも入浴が楽しみになるよう支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースやこだわりに配慮し入浴していただくよう努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存能力を生かし出来ることはしてもらい、転倒や体調の変化に注意しながら入浴できている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴したいという気持ちになれるよう声掛けを行っている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルの確認を行い、入浴前後に異常がないか注意している				



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の排泄パターンの把握により、おおよその睡眠パターンを把握している	/	/	/	事業所では、利用者の日中の活動量を増やすことで、夜間に良眠できるよう支援している。また、生活リズムに合わせて、21時頃まで共用空間でお茶を飲んだり、テレビを観て過ごしたり、その後居室に戻って就寝するなどのペースで生活をしている利用者も多い。さらに、入居前からの生活習慣で、継続して眠剤を服用している利用者があるものの、睡眠状況をよく観察して、主治医にも報告をしている。現在、ほとんどの利用者が夜間にぐっすりとお眠ることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方について、朝夕の申し送りでも共有し、原因を考え過ごし方を話し合っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師に相談を行いながら、日中の過ごし方を話し合い、共有している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	気兼ねなく静養できるよう声掛け、見守りを行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の要望があれば電話をかけている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	絵手紙作成のレクリエーションでは、ご本人が伝えたいことを聞き、職員が代筆を行った	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応を行っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はご本人にお渡しし、いつでも読むことができるよう居室に保管している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族から手紙や電話があることも多くあり、協力を得られている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	ほぼ全員の方が自己管理は難しい為、ご家族より預かっている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自己管理は難しい為、ご家族と相談し、ご本人の使いたいとの希望があれば対応できるよう努めている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	預り金については事務所で管理し使用内容は現金預かり管理簿に記入しお便りにて報告しています	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法についてはご家族に説明し、定期的に預り金台帳をご家族に送付し確認していただいている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期受診の際の付き添いや、ご本人の希望の買い物等可能な限りご本人の希望に添えるよう努めている	◎	/	◎	コロナ禍において制限が設けられているものの、個別に利用者から、食べたい物や欲しい物などの要望が出された場合には、職員が代行して買い物に行くなど、柔軟な対応をしている。また、最近では、「お店のラーメンが食べたい」という希望が出され、コロナ禍もあり、管理者等は移動販売等の利用を検討している。さらに、事業所には訪問マッサージの来訪があり、家族に相談の上で、利用している利用者もいる。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響により、出入りを制限している	○	◎	○	事業所前には駐車場があり、スロープやベンチが設置され、来訪者が座っておしゃべりを楽しめるようにしている。また、玄関周辺には鉢植えの花も飾られ、訪問調査日には利用者がベンチに座って、日光浴を楽しむ姿を見ることができた。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有スペースに季節にあった飾りつけを行っている	○	◎	○	開設2年目の新しい事業所はバリアフリー構造で、毎日の清掃や換気も行き届き、広々とした共用空間は快適となっている。また、設備も新しく、利用者が便利に生活が送れるよう配慮されている。さらに、大きい窓から日差しが差し込むほか、心地の良い風通しで気持ち良く、居室に戻らずに、日中に共用空間で過ごす利用者も多い。加えて、職員の工夫で様々な装飾が行われ、訪問調査日にはひな人形が飾られるなど、利用者や来訪者は季節を感じることができるよう取り組んでいる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の喚起、掃除を行っており、リビングに空気清浄機を設置している					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の窓があり、毎日の天候を話したり、また、季節感を感じられるように、季節に合わせた飾りつけを利用者様と一緒に作って飾り付けている						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と過ごせるよう椅子を配置したり、居室で自由に静養できるよう配慮している						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	排泄時や入浴時には必ず戸を開めるようにしている						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた物や、ご家族の写真を飾ったりしている		◎	○	居室には、ベッドや洗面台、クローゼット、キャビネットなどが備え付けられている。また、ソファやテレビなど、自宅から持ってきている利用者も多い。さらに、職員は毎日掃除を行うとともに、利用者に合わせて家族の写真を飾るなど、心地良く過ごせるような空間づくりの支援にも努めている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉付近に名前を書いた額を貼り、入室がわかるようにしている。トイレには張り紙をし、場所がわかるよう配慮に努めている			○	事業所では、居室の入り口に名前を貼っているほか、利用者が迷わないように浴室やトイレを大きく表記している。また、同じような居室の入り口で、分かりにくい利用者用には、入り口に写真などの目印を付ける支援にも取り組んでいる。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	掃除道具等は倉庫に収納しているため、いつでも手に取れるようには出来ていない。新聞、本はリビングのテーブルの上に置いてあり、誰でも読めるようになっている。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解している		×	◎	職員は社内研修などで学び、鍵をかける弊害を理解している。また、日中に玄関の施錠を行わず、夜間のみ防犯のため施錠をしている。さらに、外へ出ようとする利用者には、職員と一緒に付き添い、屋外に出て気分転換をしてもらっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、家族が事業所へ来訪する機会が激減していることもあり、利用者家族等アンケート結果から、玄関等へ鍵をかけないケアの取組みが十分に理解されていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、家族の来訪時に説明をして理解を促すなど、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	行動制限の内容にさげなく見守り、声掛けにより促すことで安全が確保できている						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者の状態にもよるが、日中は可能な限り鍵をかけないよう心掛けている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて管理している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートや介護記録にて周知している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、主治医に電話や往診対応をお願いしている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が得られるよう医療との連携を取り支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告はご家族に伝えて情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日々の受診の際に同行し、主治医に相談する等関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	その都度、報告や相談を行っており病状安定を図っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡可能な体制作りができています				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の申し送りやミーティングを通して支援方法を統一している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬情報を管理したファイルを共有し、理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表を使用し、準備、服薬前後に確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に副作用に注意しており、変化があれば主治医に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期受診時には必ず状態報告を行っている				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合い、本人家族の意向に沿えるよう支援している	/	/	/	開設2年目の事業所では、看取り支援体制を整備しているものの、今までに看取り支援の実績はない。今後、管理者は「職員への看取りなどの研修にも力を入れていきたい」と考えている。また、事業所には、看取りの経験のある職員も在籍しており、不安感は意外に大きくない様子である。さらに、「看取りに関する指針」などを整備するなど、入居時のほか、状態の変化が見られた場合には、活用しながら利用者や家族に説明が行われることを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	△	ご本人の状態によって、主治医やご家族と方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員からは聞き取りを行い、いつでも連絡可能な体制にしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約書の文面に記載したり、必要時には再度説明を行っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医等の医療関係者には、本人やご家族の意向に沿って苦しみごとくなく過ごせるよう相談を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話での相談等、ご家族の気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修等により感染予防について学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがあり、職員が手に取れるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集を行い、マスク着用、消毒、手洗いの徹底と面会の制限を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員のマスク着用、手洗いうがい、消毒の徹底と体温測定での管理を行っており、来訪者にも体温測定、管理簿への記入を行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日々の連絡で現状を伝え本人の為に協力してもらっている	/	/	/	事業所は、コロナ禍において開設したため、家族の参加を呼びかけた行事やイベントの開催は継続して自粛している。また、事業所では感染状況の拡大に伴い、窓越しなどの面会にも対応することができなくなった時期もあり、毎月、職員が日々の利用者の様子を書いたメモと写真を同封するほか、電話連絡時に利用者の様子を家族に伝えていく。さらに、事業所では、SNSの機能などを活用して、日々の様子を動画配信することを現在検討している。コロナ禍において、家族が事業所へ来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や異動、事業所内の出来事が十分に伝わっていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、来訪時に家族に説明したり、事業所便りに分かりやすく職員の入退職や異動などを記載して周知したりするなど、家族へ理解を促す方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来訪時にはゆつくりご本人と過ごしていただけるような雰囲気づくりを心掛けているが、現状はコロナウイルスの影響の為面会を行っていない	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	×	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りでは、ご家族に写真を送付している また、面会の際にご家族に録画を見ていただくこともある	/	○	/	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話にて対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	仲が良かったのか、どういうやり取りをされているか等を把握。現在の症状や、こころの対応で笑顔がある、等のお話をしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事については毎月のお便りでお知らせしているが、職員の異動退職等は載せていない	×	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし、理解していただいている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	来訪時にはご家族と話す機会を多く持つようになっている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時にはご家族、本人に説明を行っている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去される際はご家族の希望に沿う形での退去となっている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の説明や問題点、認知症への理解を深めていく予定だが、コロナウイルスの影響の為自治会長のみとなっている	/	○	/	事業所は、コロナ禍において開設したため、地域行事などがほとんど中止された状態で、利用者と一緒に参加し、交流できる機会はほとんどない状況となっている。また、事業所周辺の散歩時には、近隣住民への積極的なあいさつを心がけている。管理者は、「コロナ禍の収束後には、いろいろな地域活動に参加していきたい」と計画をしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶や散歩の際の挨拶は行っているが、コロナウイルスの影響の為地域行事には参加できていない	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	現在はコロナウイルスの影響の為外出出来ないが、以前は買い物等付き添いを行い楽しんでいただいていた	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	訪問理美容を使用したり、隣接する他事業所との協力体制はできているが、外部に関して、あまり積極的な働きかけはできていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	△	○	事業所はコロナ禍において開設したため、今までに集合形式の運営推進会議を開催することはできていない。会議の参加メンバーの利用者や家族の代表、自治会長、市担当者等には、写真を添えて利用者の様子や出来事などを伝えるほか、参加メンバーから要望や意見をもらい、次回の会議録等で報告をしている。管理者等は、「徐々に、参加メンバーとの交流を深めていくこと」を模索している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は報告する予定である	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告書を作成後、文書での報告を行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	出来ている	/	/	/	



項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていないのが現状である。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている	/	/	/	定期的に社内研修を実施するほか、認知症初任者研修や実務研修などの外部研修に参加し、職員のスキルアップに努めている。また、管理者等は、気になることはその都度職員に指導をしている。法人が大きいので、代表者の来訪する機会はないものの、法人本部から幹部職員の来訪があり、管理者等の意見を聞いている。さらに、定期的に、職員にはストレスチェックを行い、必要に応じて面談などに繋げている。加えて、管理者は職員に声をかけ、意見が出しやすい風通しの良い環境づくりに努めるとともに、人材に限りはあるものの、希望休や有給休暇の取得を促すなど、少しでも働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場その場でアドバイスを行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナウイルスの影響もあり、参加出来ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に声掛けを行い、困っていることはないか尋ねており、ストレスチェックを行っている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもち、具体的な内容の理解に努めている	/	/	/	3か月に1回、職員会の中で研修を実施し、職員へ虐待防止等の理解を深めている。また、事業所では、利用者への言葉遣いにも気を付けるよう指導しており、気になる行為が見られた場合には、管理者に報告するとともに、その都度該当職員へ確認して、話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	日々のケアについて職員ごとに確認を行っているが、ケアの実践につながるような働きかけに工夫が必要である	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケア及び発見時の対処、通報義務については周知している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的にストレスチェックを行い、声掛けを行っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	個々の理解に差があり、意識の統一が必要である	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会や日々の申し送りでも話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	x	家族からの要望があれば説明を行う	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学ぶ機会はあるが、職員の理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	対象となる方がいれば行う				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	法人には相談に乗ってもらえる環境がある(弁護士、司法書士)				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書を職員会で共有確認し、話し合う機会を設けている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会では個々の現状を確認してリスクや事故防止のための話し合いを行っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあるが理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情の例がない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情の例がない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。			○	日々の支援の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き取るよう努めている。事業所には面会制限が設けられていることもあり、家族から来訪時に意見や要望を聞く機会は少ないものの、電話連絡時等を活用して、積極的に要望などを尋ねよう心がけている。また、管理者は職員から意見を出しやすい風通しの良い環境づくりに努めるとともに、毎月の職員会を活用して、職員から意見やアイデアを出し合い、事業所内で対応できない場合には、管理者から法人本部へ伝え、可能な範囲で対応をしてきている。さらに、職員は、「新しいアイデアに前向きに検討してくれる雰囲気があり、意見が言いやすい」と感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明は行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初のみでの情報提供である				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞く機会に努めている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員個別の気付きや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている			○	



愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	外部評価以外は行っていない				今回の外部評価の自己評価は、管理者のみで作成をしている。自己評価の作成は、職員への理解促進や振り返りにも繋がることも考えられるため、一部の項目を取り上げて、職員に意見を出してもらうなど、全ての職員で作成できることを期待したい。今後管理者は、運営推進会議の中でサービスの評価結果の報告を予定しており、参加メンバーや家族からも意見がもらえるように報告の工夫をしながら、意見やアドバイスをもらうことを検討している。集合形式の運営推進会議が開催できていないため、利用者家族や地域のアンケート結果から、サービス評価の取組みの十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーへ説明をしたり、目標達成計画の取組み状況のモニターの参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ理解が得られる取組みが行われることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	外部評価の結果を職員全員周知し取り組んでいく予定				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	事業所内での取り組み成果は確認できていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				定期的に、火災等を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署の協力を得ることができていないものの、消防署へ管理者が相談し出向き、連携を図っている。また、災害発生時には、隣接する同法人のサービス付き高齢者向け住宅等と協力し合うとともに、3日間程度の食料品などの備蓄品の確保を予定している。さらに、コロナ禍において、事業所へ来訪する機会がほとんどないこともあり、地域や利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、事業所内に訓練の様子の写真を掲示したり、運営推進会議に合わせて、避難訓練を実施したりするなど、少しずつ理解が得られるような取組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練を行っているが、さまざまな時間帯の想定は行っていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災訓練時に行う				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	支援体制についての話し合いは行っていない	×	×	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加できていない				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない		×	○	事業所はコロナ禍において開設したため、地域からの相談もほとんど寄せられていない状況となっている。まだまだ地域のケアの拠点としての機能は果たせていない状況になっているものの、今後は、法人・事業所として、地域において住民も参加できる夏祭りなどの交流イベントの開催を検討するなど、コロナ禍の収束後には、少しずつ地域との交流を予定している。また、コロナ禍において、会議や行事などに協力することはほとんどできていないものの、市担当課などと可能な範囲で、連携を図っている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行っていない			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3890500550
事業所名	グループホームあすなろ
(ユニット名)	Bユニット
記入者(管理者)	
氏名	山田 昭子
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 18 日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔で楽しく穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○コロナ過で外出支援が難しく目標には達成出来ていないと感じられる。                  ○地域のネットワークづくりに取り組む事も難しかったと思われる。                  ○防火災害マニュアル見直しを行い新規マニュアルのもと予行演習が行えた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して約2年を迎える事業所は、静かな環境で穏やかな時間が流れる住宅街に立地している。事業所はバリアフリー構造で、新しい設備も完備され、清掃や換気も行き届き、利用者や職員はともに快適に過ごすことができています。また、ユニット毎に配置された管理者を中心に、資格の有無や経験年数、様々な世代の程良くバランスが取れた職員同士が、しっかりとコミュニケーションを図りながら、風通しの良い職場環境が構築されている。さらに、コロナ禍において、事業所では外出や面会などの様々な制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、管理者は、「徐々に家族や地域との交流を広げていきたい」と考え、交流を計画している。加えて、外部評価の訪問調査において、コロナ禍で新しい事業所ということもあり、十分な実施や対応ができていない項目も見られたものの、事業所では職員間で前向きに検討している段階でもあり、コロナ禍の収束後には、これからの活動の広がりが楽しみな事業所である。</p>
----------------------------------	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いや意向を表現できるよう把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや希望を聞き取り、フェイスシートを活用して、丁寧に記録を残している。また、日々の生活の中で、利用者から新たな思いなどを聞くこともある。さらに、新たな情報に更新した際には、フェイスシートに赤字等で、変更か所を分かるよう記載している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや職員会議で情報を共有し、ご本人の目線にたって話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族との面会時等にお話を聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の希望も記録に残し職員間で共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを見落とさないように日々傾聴し観察している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や本人に聞き取りを行い、面会時にも情報を聞くよう努めている	/	/	○	入居時に、事業所では利用者や家族との面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、利用者から情報を聞くとともに、電話連絡時や面会時を活用して、家族から新たな情報を聞くこともある。さらに、把握した情報は、フェイスシートや申し送りノートなどに記録し、職員間の情報共有に努めている。加えて、定期的にフェイスシートなどの記載内容の情報を更新するとともに、更新した年月日も朱書きで書き留めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の出来ることに視点を置き対応している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々観察し、些細な変化や気付きがあれば職員間でも共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送り時に個々の様子を話し、要因になっていることについて話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護日誌、健康管理表を活用し、申し送り時に情報の共有を行っている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様やご家族の思いやニーズを考え、都度申し送り時に話し合うようにしている	/	/	○	月1回開催する職員会を活用して、利用者の状態や支援方法等を検討するほか、朝夕の申し送り時に相談することも多くなっている。また、利用者から希望や訴えが出された場合には、申し送り時に職員間で情報を共有するとともに、柔軟に対応するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日常生活の中で何気なく発する言葉に耳を傾け検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明らかにするよう努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の要望に沿った介護サービス計画を作成している	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見や希望を聞くほか、サービス担当者会議を活用して検討を行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。また、利用者の意見や希望を反映した介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員会や日々のご家族からの聞き取りにより、反映するようにしている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	個々の身体状況に応じた内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との協力的体制は出来ているが地域の方との協力はできていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員全員が把握できるように個人ファイルに管理し、いつでも目を通すことができるように管理している	/	/	/	介護計画の内容は、サービス担当者会議等の中で話し合うとともに、個別ファイル等は、職員がすぐ確認できる場所に置き、職員は目標やサービス内容等を確認できるようになっている。また、職員は計画に沿ったサービスの実施状況を、毎日○×などの印を付けてチェックを行うとともに、介護記録には、利用者の様子などを丁寧に記録することができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員にも意見を聞き取りモニタリングを行っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子は介護記録に記載している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送り時や職員会で話し合い共有し記録に残している	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っているまた、状況に応じて見直ししている	/	/	/	事業所では、要介護認定の期間に合わせて、介護計画の見直しをしている。また、月1回実施する職員会の際には、サービス実施状況を確認して利用者の現状確認を行うとともに、介護支援専門員が要約したコメントを残すことができている。さらに、介護計画の目標などを職員間で検討するとともに、状態の変化のあった場合には、現状に合わせた介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回の職員会で個々の現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば本人・家族、主治医と話し合い、計画の見直し、変更を行っている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回は職員会を行い、緊急時は現場の職員間で話し合いを行っている	/	/	/	毎月実施する職員会を活用して、職員間で話し合うとともに、議事録を作成している。月末頃の職員が参加しやすい日程を調整して、職員会を開催している。また、日々の申し送りの内容は、申し送りノートに記載され、出勤時等に職員は確認をしている。さらに、参加できない職員には、正確な情報が伝達できるように、議事録や申し送りノートなどの確認を徹底している。加えて、緊急案件のある場合には、申し送り時に話し合うほか、その日の出勤職員で話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	話しやすい雰囲気づくりが出来ている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日程を調整し、不参加の職員にもわかるよう申し送りを行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを作成し、全員に伝えるようにしている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや個人申し送りノートを作成し活用している	/	/	/	日々の朝夕の申し送りを実施するほか、出勤時等に申し送りノートや議事録等を確認してもらい、職員は確認後に署名を行い、確実な伝達に繋げている。また、重要事項などの内容によっては、管理者が口頭でも伝達をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用し、朝夕の申し送り時にも共有している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	訴えに対して可能な限り行っている	/	/	/	塗り絵や計算ドリル、カラオケ、編み物などを行う際には、職員から利用者に声をかけ、したいことや興味のあるレクリエーションなどができるように支援している。また、午後の時間帯には、利用者が思い思いの場所で、好きなことをしながら過ごしてもらえるよう努めている。さらに、職員は利用者から生き生きとした表情を引き出し、少しでも楽しみのある生活を送れるよう配慮している。コロナ禍において、事業所では外出や面会などには制限が設けられているものの、可能な範囲で、利用者の思いや意向を大切にしたい支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	内容によって自己決定してもらっている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の気持ちを優先し、納得してもらえるよう支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活習慣やご本人の特性を観察し、希望に応じて対応している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔になれるような言葉かけに努めている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	反応や態度を観察し、些細な変化にも気付くことができるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけないような声替えを行い穏やかな態度で接するようにしている	/	○	◎	定期的に社内研修等を実施し、職員は人権や尊厳などを学んでいる。また、職員は意識して利用者への声かけや態度などを気を付けるとともに、気になる行為等が見られた場合には、管理者等が該当職員へ指導や注意喚起をしている。さらに、気になることは、職員会等を活用して話し合うとともに、職員への周知と再発防止に努めている。加えて、職員は居室等をプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際には、ノックや声かけをして、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法や声の大きさ等配慮のある声掛けを行っている	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時、排泄時は担当者以外は出入りを控えるようにしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	本人が居室にいる際は、ノックと声掛けを行い了解を得て入室している	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職務としての守秘義務を守り業務している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳む、掃除、洗い物など出来るところを手伝ってもらい、感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	洗濯物たたみや清掃、食器洗いなど、職員は利用者には手伝ってもらった場合には、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、職員は利用者一人ひとりの思いや意向をしっかりと聞くよう努めるとともに、利用者同士の関係性を把握し、座席の位置を考慮したり、利用者の間に職員が座ったりするなど、大きなトラブルが起こらないよう配慮をしている。さらに、日頃から職員は、利用者の様子をよく観察して性格などの把握にも努めており、気を配りながら、一人ひとりが快適に過ごせるような支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声を掛け合い、励ましあえるような関係づくりを作れるよう努めている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	都度、座席やテーブルの配置換えをしたり、職員が間に入って関係性が良くなるよう配慮している	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時には間に入り、お互いから傾聴し関係性が悪化しないよう注意している	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントをもとにご本人との会話交流の中で情報を得ている					
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族からの情報収集や利用者本人との関わりの中で把握に努めている					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	新型コロナウイルスにより他者との交流ができない					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響により面会が行えないが、面会が可能になればご本人の希望や状態により居室で過ごしていただく予定である					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩やベランダにての外気浴は、気温や天候に考慮しながら対応している。個別の外出は家族とも協力しながら行っている。	×	○	○	コロナ禍において、事業所では外出制限は設けられているものの、感染状況を見計らいながら、天気のいい日には近くの公園に出かけたり、屋外にあるベンチで日向ぼっこをするなど、少しでも気分転換が図れるよう努めている。また、職員が買い物や薬局へ行く際に、利用者も同行してドライブをすることもあり、その際には、車外には出ずに待機してもらい、風景などを楽しんでもらっている。さらに、車いすの利用者も、公園への散歩や日向ぼっこをしてもらうことができている。加えて、要介護度の高い利用者にも、2階のベランダに出て、日向ぼっこや外気浴ができるよう支援している。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	ベランダでの日光浴等にどまっている					○
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナウイルスの影響により行えていないが、緩和すればご家族の協力も得ながら外出を行っていただく予定					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全職員で個別ケアの重要性について話あっている				ラジオ体操や歩行訓練など、事業所では利用者に合わせて身体を動かす機会づくりを行い、心身機能が保てるよう支援している。また、職員は時間がかかっても、利用者一人ひとりのペースに合わせて、自分ができることは過剰に支援せず、見守りや待つ介護などの姿勢を大切にしている。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で得意であったことを勧め日課にして日常生活動作を図っている。ベランダにて歩行練習を行っている。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご本人の身体能力にあったレクリエーションや作業に取り組んでいただけるよう観察しながら努めている	○		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家事や生活リズム等、ご本人の習慣を崩さないよう取り組んでいる				洗濯物たたみや清掃、食器洗いなどの家事を、職員と一緒にしている利用者も多い。また、事業所では、家事などの役割や出番などを利用者にも無理強いくことなく、職員は声をかけて、誘ってみようとしている。さらに、全ての利用者がレクリエーションに参加している訳ではないものの、訪問調査日には、居室に戻らずに共用空間で快適に過ごす利用者の様子を見ることができた。加えて、利用者の高齢化や重度化などに伴い、手伝うことが難しくなっている利用者も増えてきている。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの得意なことを把握し、声掛けにて無理せず参加できている	○	◎	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在、地域行事は行えていない					

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自宅で愛用していた物を持ってきていただいている				起床時に、自分で服を選んで、身だしなみを整えることができる利用者もいる。訪問調査日には、食事の際等に、食べこぼしや衣類の乱れ等が見られる利用者に、職員がさりげなくフォローをしている様子を見ることができた。また、2か月に1回、訪問理美容の来訪があり、希望があれば毛染めもしてもらうことができ、利用者に喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご本人の希望や意向に沿うよう対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	表情を観察しながら押しつけにならない様に支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の意思を確認しながら服装を選んでいただくよう努めている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドが傷つけないよう声掛けに配慮し対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人希望の理美容店があれば、ご家族の協力を得て外出を行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族の協力のもと行っている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個々に合わせて楽しい食事が提供できるように支援している				事業所では、業者の配食サービスを活用し、各ユニットで炊飯と汁物を準備し、食材を温め直して提供している。食事のメニューは、業者の栄養士がバランスの取れた献立を管理して、提供をしている。昨年の4か月間程度、職員の手作り食を導入し、利用者に好評を得ていたものの、現在は職員の負担を考えて、元の状態に戻している。管理者等は、手作り食の提供を含めて、今後の食事の提供方法を検討しているため、利用者に好みのメニューを聞いたり、定期的に配食サービスを止めて、利用者と一緒にメニューを調理したりするなど、楽しみの一つである食事を利用者により良い形で提供できるように、職員間で検討することを期待したい。また、食器類は、自宅で使い慣れた食器等を使用することも伝えているものの、ほとんどの利用者は事業所で用意した物を使用している。さらに、季節の行事や誕生日などのイベント食の日には、職員が手作りの食事やケーキなどの提供を行うほか、利用者と一緒におやつ作りを楽しむこともある。加えて、コロナ禍において、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることはしていないが、利用者に寄り添い、声かけをしながら楽しく食事ができるように支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の下ごしらえが出来る利用者様には手伝って頂き下膳後の食器洗いなどをして頂いている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ともに行った作業後には必ず感謝を伝え、自信をもっていたできるよう努めている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ご本人の様子や、ご家族から情報を得て把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	季節感にあった食材を調理し提供できた			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	個々の機能に合わせて食事が苦痛とならない様に配慮している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事時には施設の物を使用し、居室で使うものはご本人が愛用されていた物を持参していただいている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染予防の為、一緒に食事はとっていないが、見守りやサポートが行える体制をとっている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前には今日のメニューや調理方法等食事に関わる会話を行っている		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	介護記録に食分量、水分摂取量を記入するようにしている				
		k	食分量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人の希望を聞き、様々な飲み物や食べ物を提供している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	専門の業者と契約し栄養バランスに配慮した食事を提供している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前の手洗いアルコール消毒を常に励行している				



愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	訪問歯科の指導を受けながら口腔ケアの必要性重要性の理解に努めている				毎食後に、職員は利用者に声をかけ、一人ひとりに付き添い、順番に歯磨きなどの口腔ケアを支援している。また、必要に応じて、職員は磨き残しなどのフォローをしている。さらに、一人で歯磨きができる利用者も含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、口腔内の状況確認の際に、気になることがあれば、早期に訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	異変があれば情報共有を行い、ご家族とも相談してうえで必要に応じて歯科受診、訪問歯科を利用している			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診の際は、医師にブラッシングの方法を教えて頂くなどし、日々の生活の中で使えるようにしています				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	それぞれの状態に応じて支援できている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	一人一人に声掛けし見守りや介助を行いながら本人の口腔内の健康状態を把握に努めている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合が生じた際は、訪問歯科受診を積極的に依頼している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し、排泄の自立に向けて支援している				事業所では、可能な範囲で利用者がトイレで排泄できることを基本として、支援をしている。また、職員がこまめに声かけやトイレ誘導をすることで、布パンツで生活することができている利用者もいる。さらに、利用者の状態に合わせて、紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用を、職員会の中で検討することも多い。加えて、事業所では利用者の負担を考慮して、記録で排泄状況を確認しながら、できる限りパッドは薄い物を使用したり、紙パンツから布パンツに変更できるよう工夫したりするなど、自立した排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、便秘予防に努めている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録を活用し職員間で理解に努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人の状態や現状を見直し支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で情報を共有し、その都度話し合いを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の表情や行動を観察し、適宜対応している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状況や排泄パターン(兆候)考えながら使用している。おむつ類の使用に関しては使用前に家族へも相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個別の状態に合わせて使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	現在は、ユニット内で出来る運動や水分摂取、食事形態などに留意しながら取り組んでいる				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の体調に応じて時間帯や曜日を決めている。湯温は都度ご本人に聞くようにしている。		◎	○	事業所では、週2回程度、利用者が入浴ができるよう支援している。また、事業所は新しく、脱衣場と浴室には冷暖房設備が完備されていることができ、冬場でも利用者は温度差を感じることなく、快適な状況で入浴することができ、現在入浴を拒むような利用者もいない。さらに、利用者の好みに応じて、湯の温度や湯船に浸かる時間などにも柔軟に対応できるよう努めている。加えて、好みのシャンプーや入浴剤を使用している利用者もおり、少しでも入浴が楽しみになるよう支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせながら、ゆっくりとくつろげる環境になるように支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安全面を考慮しながら適切に器具(シャワーチェア、手すり)を使用し支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人の理解を得られるように工夫したり声掛けに対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日のバイタルを確認し状態把握に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	巡回時間を中心に状況把握に努め、職員間で情報を共有し取り組んでいる				事業所では、利用者の日中の活動量を増やすことで、夜間に良眠できるよう支援している。また、生活リズムに合わせて、21時頃まで共用空間でお茶を飲んだり、テレビを観て過ごしたり、その後居室に戻って就寝するなどのペースで生活をしている利用者も多い。さらに、入居前からの生活習慣で、継続して眠剤を服用している利用者があるものの、睡眠状況をよく観察して、主治医にも報告をしている。現在、ほとんどの利用者が夜間にぐっすりとお眠ることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を通して昼夜逆転しない様に取り組んでいる				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	主治医と職員間で相談しながら支援している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個室の環境下でプライバシーが保たれ心身を休養できる環境を整えている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の要望があれば電話をかけている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	絵手紙作成のレクリエーションでは、ご本人が伝えたいことを聞き、職員が代筆を行った				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応を行っている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はご本人にお渡しし、いつでも読むことができるよう居室に保管している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族から手紙や電話があることも多くあり、協力を得られている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	自己管理が難しいため、ご家族より預かっている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在行えていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自己管理は難しい為、ご家族と相談し、ご本人の使いたいとの希望があれば対応できるよう努めている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	預り金については事務所で管理し使用内容は現金預かり管理簿に記入しお便りにて報告しています				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法についてはご家族に説明し、定期的に預り金台帳をご家族に送付し確認していただいている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期受診の際の付き添いや、ご本人の希望の買い物等可能な限りご本人の希望に添えるよう努めている	◎		◎	コロナ禍において制限が設けられているものの、個別に利用者から、食べたい物や欲しい物などの要望が出された場合には、職員が代行して買い物に行くなど、柔軟な対応をしている。また、最近では、「お店のラーメンが食べたい」という希望が出され、コロナ禍もあり、管理者等は移動販売等の利用を検討している。さらに、事業所には訪問マッサージの来訪があり、家族に相談の上で、利用している利用者もいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>(3)生活環境づくり</b>											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	気軽に来館出来るように玄関周りは清潔に保たれているが、現在はユニット自体への入館は禁止している	○	◎	○	事業所前には駐車場があり、スロープやベンチが設置され、来訪者が座っておしゃべりを楽しめるようにしている。また、玄関周辺には鉢植えの花も飾られ、訪問調査日には利用者がベンチに座って、日光浴を楽しむ姿を見ることができた。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感を取り入れた飾りつけを行っている	○	◎	○	開設2年目の新しい事業所はバリアフリー構造で、毎日の清掃や換気も行き届き、広々とした共用空間は快適となっている。また、設備も新しく、利用者が便利に生活が送れるよう配慮されている。さらに、大きい窓から日差しが差し込むほか、心地の良い風通しで気持ちが良く、居室に戻らずに、日中に共用空間で過ごす利用者も多い。加えて、職員の工夫で様々な装飾が行われ、訪問調査日にはひな人形が飾られるなど、利用者や来訪者は季節を感じる事ができるよう取り組んでいる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を実施し汚れた際にはその都度、掃除を行っている					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の窓があり、毎日の天候を話し合ったり、また、季節感を感じられるように、季節に合わせた飾りつけを利用者様と一緒に作って飾り付けている						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と過ごせるよう椅子を配置したり、居室で自由に静養できるよう配慮している						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	直接見えないような環境になっている						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時より自宅で使用していた家具など馴染みのあるものを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう工夫している		◎	○	居室には、ベッドや洗面台、クローゼット、キャビネットなどが備え付けられている。また、ソファやテレビなど、自宅から持ってきている利用者も多い。さらに、職員は毎日掃除を行うとともに、利用者に合わせて家族の写真を飾るなど、心地良く過ごせるような空間づくりの支援にも努めている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉付近に名前を書いた額を貼り、入室がわかるようにしている。トイレには張り紙をし、場所がわかるよう配慮に努めている			○	事業所では、居室の入り口に名前を貼っているほか、利用者が迷わないように浴室やトイレを大きく表記している。また、同じような居室の入り口で、分かりにくい利用者用には、入り口に写真などの目印を付ける支援にも取り組んでいる。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	雑誌や新聞などの比較的安全なものは手に届く場所に設置している。危険を伴うものは生活環境の中に設置していない。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員一人一人が鍵に対する弊害に対して理解している	×	◎	◎	職員は社内研修などで学び、鍵をかける弊害を理解している。また、日中に玄関の施錠を行わず、夜間のみ防犯のため施錠をしている。さらに、外へ出ようとする利用者には、職員と一緒に付き添い、屋外に出て気分転換をしてもらっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、家族が事業所へ来訪する機会が激減していることもあり、利用者家族等アンケート結果から、玄関等へ鍵をかけないケアの取組みが十分に理解されていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、家族の来訪時に説明をして理解を促すなど、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	入居者及び家族へは説明理解が得られるよう働きかけている						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者の状態にもよるが、日中は出来るだけ鍵をかけない様に心がけている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて管理している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートに記録し周知している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、主治医に電話や往診対応をお願いしている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が得られるように医療との連携を取り支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告を家族に伝えて情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度情報提供をおこなっている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院側からの病状の経過説明受けたり早期退院に向けて話し合っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日々の受診の際に同行し、主治医に相談する等関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	その都度報告や相談をしており病状安定が図られている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡が可能な体制作りが出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の申し送りやミーティングなどを通して支援方法の統一を図れている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬情報を管理したファイルを共有し、理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表や薬箱を使用し準備、服薬前、服薬時に確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に副作用に注意している。また、定期薬の変更時には特に気を付け変化があれば主治医に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期受診時には必ず状態を報告している				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合い本人・家族の意向に沿える様に支援している	/	/	/	開設2年目の事業所では、看取り支援体制を整備しているものの、今までに看取り支援の実績はない。今後、管理者は「職員への看取りなどの研修にも力を入れていきたい」と考えている。また、事業所には、看取りの経験のある職員も在籍しており、不安感は意外に大きくない様子である。さらに、「看取りに関する指針」などを整備するなど、入居時のほか、状態の変化が見られた場合には、活用しながら利用者や家族に説明が行われることを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	△	家族と主治医の話し合った方針の決定は全職員で方針の共有を行っている	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフに不安な事を聞き取りいつでも連絡がつくようにしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約書の文面内に記載したり、必要時に再度説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医との医療連携を行いながら、本人が苦痛なく暮らせる方法を指導してもらっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族からの話には積極的に耳を傾け心理的支援に取り組んでいる	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修等により感染予防について学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがあり、職員が手に取れるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	マスク着用・消毒手洗いの徹底と面会の制限を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員のマスク着用、手洗いうがい、消毒の徹底と体温測定での管理を行っており、来訪者にも体温測定、管理簿への記入を行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の些細な事でも家族に報告し状況を共有しコミュニケーションを行い信頼関係が築けるように努力している	/	/	/	事業所は、コロナ禍において開設したため、家族の参加を呼びかけた行事やイベントの開催は継続して自粛している。また、事業所では感染状況の拡大に伴い、窓越しなどの面会にも対応することができなくなった時期もあり、毎月、職員が日々の利用者の様子を書いたメモと写真を同封するほか、電話連絡時に利用者の様子を家族に伝えている。さらに、事業所では、SNSの機能などを活用して、日々の様子を動画配信することを現在検討している。コロナ禍において、家族が事業所へ来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や異動、事業所内の出来事が十分に伝わっていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、来訪時に家族に説明したり、事業所便りに分かりやすく職員の入退職や異動などを記載して周知したりするなど、家族へ理解を促す方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	職員は常に笑顔を手掛話しやすい雰囲気を作るように努めている。現在コロナ状況により面会時の入室は不可。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルス感染症対策の為、現在できていない。	×	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りでは、ご家族に写真を送付している また、面会の際にご家族に録画を見ていただくこともある	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の面会時や電話にて対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	仲が良かったのか、どういうやり取りをされているか等を把握。現在の症状や、こいう対応で笑顔がある、等のお話をしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事については毎月のお便りでお知らせしているが、職員の異動退職等は載せていない	×	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルス感染症にて、中止となっている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては都度説明し了解を得て対応	/	/	/	
j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時は家族と話す機会を多く持つようになっている	/	/	○			
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時にはご家族、本人に説明を行っている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退去時に条件について説明している。納得の退去になるよう説明し行先も相談している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	口頭で説明及び書面にて了承を得ている	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	2か月に1回、運営推進会議を開催し事業所の説明や問題点、認知症の理解を深める予定だがコロナウイルス感染症の為、自治会長のみにしている	/	○	/	事業所は、コロナ禍において開設したため、地域行事などがほとんど中止された状態で、利用者と一緒に参加し、交流できる機会はほとんどない状況となっている。また、事業所周辺の散歩時には、近隣住民への積極的なあいさつを心がけている。管理者は、「コロナ禍の収束後には、いろいろな地域活動に参加していきたい」と計画をしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	自治会に入会し行事等への参加は出来ていないが、日常声掛け挨拶は行っている	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルス感染症の為、来館を控えている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルス感染症の為、行っていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	感染状況を踏まえ参加は控えている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	訪問理美容を使用したり、隣接する他事業所との協力体制はできているが、外部に関して、あまり積極的な働きかけはできていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	△	○	事業所はコロナ禍において開設したため、今までに集合形式の運営推進会議を開催することはできていない。会議の参加メンバーの利用者や家族の代表、自治会長、市担当者等には、写真を添えて利用者の様子や出来事などを伝えるほか、参加メンバーから要望や意見をもらい、次回の会議録等で報告をしている。管理者等は、「徐々に、参加メンバーとの交流を深めていくこと」を模索している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は報告する予定である	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告書を作成後、文書での報告を行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	出来ている	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族や利用者の方、地域の方には十分な理解に繋がっていない	x	x		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修には数人参加出来ているが、社内研修で取り組んでいる				定期的に社内研修を実施するほか、認知症初任者研修や実務研修などの外部研修に参加し、職員のスキルアップに努めている。また、管理者等は、気になることはその都度職員に指導をしている。法人が大きいため、代表者の来訪する機会はないものの、法人本部から幹部職員の来訪があり、管理者等の意見を聞いている。さらに、定期的に、職員にはストレスチェックを行い、必要に応じて面談などに繋げている。加えて、管理者は職員に声をかけ、意見が出しやすい風通しの良い環境づくりに努めるとともに、人材に限りはあるものの、希望休や有給休暇の取得を促すなど、少しでも働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場その場でアドバイスをしている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	大切さを理解しているが積極的参加に至っていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が働く甲斐を感じながら日々の常務に取り組める様、努力している	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的を実施している				3か月に1回、職員会の中で研修を実施し、職員へ虐待防止等の理解を深めている。また、事業所では、利用者への言葉遣いにも気を付けるよう指導しており、気になる行為が見られた場合には、管理者に報告するとともに、その都度該当職員へ確認して、話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	申し送りやユニット会などの機会を通して問題点を話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	対処法は理解しているがマニュアルが全体には周知徹底はしていない				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に職員の意見を聞き介入している				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	委員会が設置され周知徹底が出来るように努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	不明な点は委員会に報告相談を仰ぐようにしている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	x	常に家族に身体状況を報告しケアの取り組みやリスクについて話し合っている				

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	大まかに理解している、現在は必要な人がいないので十分な理解に至っていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	対象となる利用者がいない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	法人は常に相談に乗ってもらえる弁護士や司法書士がある				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急マニュアルがある				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書を全員が確認して再発防止について話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全体会で個々の現状を確認してリスクの高い入居者については事故防止のための話し合いをしている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情はない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情はない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	介護相談員さんが来所し入居者の話を聞いてくれる			○	日々の支援の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き取るよう努めている。事業所には面会制限が設けられていることもあり、家族から来訪時に意見や要望を聞く機会は少ないものの、電話連絡時等を活用して、積極的に要望などを尋ねよう心がけている。また、管理者は職員から意見を出しやすい風通しの良い環境づくりに努めるとともに、毎月の職員会を活用して、職員から意見やアイデアを出し合い、事業所内で対応できない場合には、管理者から法人本部へ伝え、可能な範囲で対応をしてきている。さらに、職員は、「新しいアイデアに前向きに検討してくれる雰囲気があり、意見が言いやすい」と感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	面会時家族から機会を作っている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	事業所に足を運んでくれている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員から提案を聞いたなら実現出来るように支援している			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	出来ていない				今回の外部評価の自己評価は、管理者のみで作成をしている。自己評価の作成は、職員への理解促進や振り返りにも繋がることも考えられるため、一部の項目を取り上げて、職員に意見を出してもらうなど、全ての職員で作成できることを期待したい。今後管理者は、運営推進会議の中でサービスの評価結果の報告を予定しており、参加メンバーや家族からも意見がもらえるように報告の工夫をしながら、意見やアドバイスをもらうことを検討している。集合形式の運営推進会議が開催できていないため、利用者家族や地域のアンケート結果から、サービス評価の取組みの十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーへ説明をしたり、目標達成計画の取組み状況のモニターの参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ理解が得られる取組みが行われることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	出来ていない				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	出来ていない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	出来ていない	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				定期的に、火災等を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署の協力を得ることができていないものの、消防署へ管理者が相談しに向き、連携を図っている。また、災害発生時には、隣接する同法人のサービス付き高齢者向け住宅等と協力し合うとともに、今後は、3日間程度の食料品などの備蓄品の確保を予定している。さらに、コロナ禍において、事業所へ来訪する機会がほとんどないこともあり、地域や利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、事業所内に訓練の様子の写真を掲示したり、運営推進会議に合わせて、避難訓練を実施したりするなど、少しずつ理解が得られるような取組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練を行っているが、さまざまな時間帯の想定は行っていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備点検は定期的を実施。非常食に関してはまだ未定であるが今後非常食管理する予定(非常食の飲料水は確保済み)				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	支援体制についての話し合いは行っていない	×	×	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	合同訓練には至っていない				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	出来ていない		×	○	事業所はコロナ禍において開設したため、地域からの相談もほとんど寄せられていない状況となっている。まだまだ地域のケアの拠点としての機能は果たせていない状況になっているものの、今後は、法人・事業所として、地域において住民も参加できる夏祭りなどの交流イベントの開催を検討するなど、コロナ禍の収束後には、少しずつ地域との交流を予定している。また、コロナ禍において、会議や行事などに協力することはほとんどできていないものの、市担当課などと可能な範囲で、連携を図っている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行っていない			○	